



## 愛川ふれあいの村7月の風景

# 平成28年7月 自然のたより

梅雨時の晴れ間は、日差しによって照らされた緑を、より鮮明に彩っています。その中で、セミたちが土の中の生活を終えて地上に出てきました。ニイニゼミやアブラゼミ、ヒグラシは鳥たちに負けない勢いで合唱しています。また、子どもたちに大人気のカブトムシとクワガタムシも見られるようになりました。



ネムノキに集まる昆虫



神奈川県の花・ヤマユリ



ニイニゼミの抜け殻



ノコギリクワガタ



スズメの給餌



イカル



オオタカの若鳥



アブラゼミの抜け殻



アブラゼミ



キジマトラカミキリ



アカアシクワガタ



脱皮直前のヘビ



尾が切れたコホリカヒ



カブトムシ



オオバギボウシ



## ◆つる植物のたくましさ◆

### ～特性と利用～

皆さん、つる植物と聞いて、どんな植物を思い浮かべますか。身近なところと言うと、スイカやブドウなど食用となるものやアサガオやフジなど花を見て楽しむものがあります。つる植物は食べてもおいしく、見ても楽しい植物です。しかし少し厄介な一面があります。

つる植物は英語で“Climbing plant”といい、日本語にすると“よじ登り植物”となります。その名の通り、枝先の吸盤で壁や樹木にくっついたり、巻きひげで柵や枝に巻き付いたりして高く成長します。ひょろひょろとして自力で体重を支えることができないつる植物は、他の植物を上手く活用することで大きく成長できます。高く成長することで植物にとって大事な太陽の光を受けやすくなっているのです。そのことによって他の植物から光を奪ったり、絡み



ツタの吸盤



樹木に絡みつくオニドコロ

つくときの絞め付けによって植物を枯らしてしまったりしているのです。また木を剪定する時は作業を妨げてしまうこともあります。実際愛川ふれあいの村でも植木の手入れをいただいている造園業者の方を困らせています。

しかしそんな厄介なつる植物でもその特性を上手く活かした活用方法があります。それは壁面緑化や緑のカーテンです。これらの方法で空間を有効活用し、夏の暑さを少しでも和らげようと、家庭や企業でゴーヤやアサガオを植えている方は多いのではないのでしょうか。もしかすると、地球温暖化をほんの少し食い止められているかもしれません。つる植物の特性である空間の有効活用を、最大限に人の生活に取り入れた方法です。一見頼りなく見えますが、その特性を活かしてたくましく生きているのです。(石川)



ツタに覆われた樹木

## ▼ウラギンスジヒョウモン▼

村内で見ることができる「ウラギンスジヒョウモン」というチョウの1種。村内ではたびたび見ることができますが、実はこのチョウは神奈川県の中で、近い将来絶滅の可能性のある『絶滅危惧種』として選定されています。

かつては県内全域で見られていたようですが、草地や雑木林が少なくなったために、チョウの生息数が減少してしまいました。しかし、限られた地域で見ることができるということは、その地域の自然環境が保たれているということなのです。絶滅危惧種だけでなく、さまざまな生物が自然環境の良し悪しを教えてくれる『ものさし』となっています。

身近な生物で自然環境を調べてみるのも楽しいかもしれませんよ。(大瀧)



## ★旬のお知らせ：ピーマン★

7月に入り気温の高い日が続いています。夏バテかもと感じている方も多いのではないのでしょうか。そんなときに、食べてもらいたい食材が、『ピーマン』です。ピーマンに含まれるビタミンCが免疫効果を高めストレスを和らげます。結果、夏バテ防止の効果が期待されます。

ピーマンは苦味があり、子どもたちには敬遠されがちですが、栄養価の高い食材です。調理の仕方を工夫することで、苦味を弱くすることもできます。また、子ども向けに苦味が少なく、甘みのあるピーマンも販売されています。

旬のピーマンを食べて、夏バテにならないように気を付けましょう!(鷺山)



## ◎8月の

### 注目ポイント◎

今年の立秋は八月七日。日差しが強くなり始め、夏本番になったかと思いきや、実は暦上では秋が始まっていく時季になります。

そもそも、『立秋とは?』と思う方もいらつしやるかと思いますが、立秋とは、「太陽が地球上を通る経路が百三十五度になる日」ということ。ちなみに、基準は0度になる春分ということになります。

さて、この立秋を迎えると、朝夕が涼しくなり、秋の気配をよく感じるようになります。秋虫の鳴き声が聞こえたり、秋の味覚のキノコやクリ、カキ、リンゴなどがどんどん大きくなっていきます。

他にも、春に日本へ来て繁殖をした夏鳥は、越冬のための渡りを始めたり、子孫を残すために種子を飛ばしたりする野草もあります。

しかし、今年の夏は例年にならない猛暑となるという、NASAの発表があったように、そう簡単には秋の気配は感じられないかもしれません。けれども、日を追うごとに秋へと少しずつ変化していくことではないでしょうか。

ぜひ、五感を使って、秋探しをしてみてください。(大瀧)



オオルリ



キビタキ



ムクドリ

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・鷺山裕・石川雄馬・大瀧裕基子

文章：鷺山裕・石川雄馬・大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★